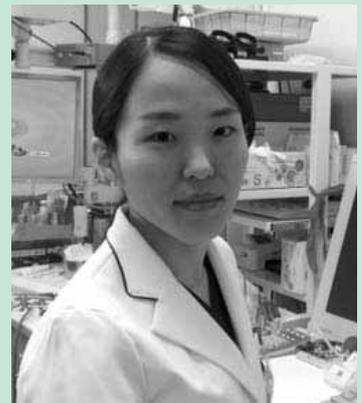


## 私のカルテ

No 3 3 6

## 嚥下障害



津島市民病院  
耳鼻咽喉科医師  
箕浦千恵

## 嚥下障害とは

物を食べることは、食べ物を認識し、口に入れ、嚥んで、飲み込むという一連の動作からなります。このうち飲み込むという動作が嚥下にあたります。嚥下には様々な器官が関わっており、これらが障害を受けると嚥下障害がおこります。

## 症状

食べ物が飲み込みにくくなった、食事の中のおせといった症状が現れます。固いものや、ばつじいたものが食べにくくなり、食事に時間がかかるようになります。ものを飲み込んだあとに咳がでたり、痰のからんだような声になったりします。

さらに症状がすすんだ場合には、食べ物や飲み物が気道の中に入ってもむせが起きずに肺炎をおこしてしまつてことがあります。このような肺炎を誤嚥性肺炎といいます。

## 原因

脳梗塞や脳出血などの脳血管障害、神経や筋疾患などがあると高い確率で嚥下に関わる器官の動きや感覚が悪くなり嚥下障害がおきます。食べ物や飲み物が通る場所(口腔、咽頭、喉頭、食道)に癌などのできものができると通過が困難になり嚥下障害がおきます。

これらの病気は、嚥下障害がおきたために病院を受診して発見される場合もあります。

また、特異な病気がなくても加齢によつての筋力や感覚がおちると誰でも嚥下障害を起こしえます。高齢者の肺炎の多くは誤嚥性肺炎といわれており、高齢社会である現在その対応が問題となっています。

## 検査

嚥下内視鏡といつて鼻からのどに内視鏡を入れて実際に食べ物や飲み物を嚥下してもらい誤嚥があるか、どの動きや感覚がよいかをみる検査があります。

す。また、実際に食べ物や飲み物がどのように飲み込まれるかを調べるためには造影剤を用いて嚥下状態をX線透視下に観察する嚥下造影検査があります。

## 治療

栄養摂取と誤嚥防止の観点から嚥下障害の程度により対応や治療法を決定します。

嚥下障害が軽度な場合には誤嚥が起これにくいように食べ物の形態を工夫します。水のようなものは誤嚥しやすいためにトロミをつけることがその代表例です。また集中して時間をかけて食べる、食べるときの姿勢に気を付けるといったちよつとした工夫でも誤嚥を防ぐことができます。しかし、ある程度以上の障害があると口からの食事のみでは栄養の摂取が不十分になり、他の栄養摂取方法(点滴、胃ろうなど)を取り入れる必要があります。これらの選択についてはご本人の生活スタイルや病気の状態に応じて決めることが可能です。

## 最後に

食事をおいしくとることは楽しみであり体の栄養にもなりますから大切なことです。一方で嚥下障害は誤嚥性肺炎を引き起こし生命の危険を招きえています。症状がある方はまずは検査をさせていただきます。ただき個々に応じた治療法をアドバイスさせていただきます。

